

# かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を



「主の祈り」によると、祈りで一番大切なのは神の御名が崇められることです。この実現を神ご自身が一番願っておられます。御名が崇められるためには御国が来なければなりません。この地上では教会で御名が崇められるほかに、御名が汚されてばかりです。教会も不完全ですから、その程度においては限界があります。ですから御国が来ること、すなわち神の救いの完成を二番目に祈ります。御国が完成するためには、地上において御心が行われることを求めなければなりません。御国を完成に至らせる神の救いのご計画が行われるようにとの祈りです。神はこの計画のために必ず私たちを用います。その私たちの願うところではなく、神の御心が成ることを求めなければなりません。このように主の祈りは順序も大切で違えてはなりません。では、四番目の「私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください」は、どう捉えたら良いでしょうか？肉の弱さを持つ私たちは神に養われなければ生きることができない者ですから、そのために祈ります。しかし、その意味合いだけでは不十分です。神の救いのご計画が行われ、救いの完成が成り、神の御名が最大限崇められるために、私たちが養われなければならないのです。日ごとの糧、言い換えるなら神による生存の保障は私たち自身のためではなく、神の栄光のためにあるという理解が必要です。五、六番目の祈りもこれに準じます。「糧を与えてください」と自分本位に祈ることもできます。それは地上のことだけです。しかし、同じ祈りで御名のために祈ることもできます。主の祈りは御国の完成に向かう終末的視点があって、初めて正しく祈ることができま。祈りを変え、生活意識と生活を変えましよう。

JBBF国内宣教委員会委員長・井口拓志

かいたく 2023年4月発行 第88号 発行元:JBBF国内宣教委員会 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉4696-27 編集責任:井口拓志 デザイン:元田健次

## 2022年度 国内宣教委員会一般会計収支報告

【収入】		【支出】	
献金	¥2,033,600	「かいたく」発行費	¥234,696
		カンファランス費	¥198,586
		委員会議費・交通費	¥160,728
		慶弔費	¥20,000
		開拓伝道支援費	¥556,000
		事務費	¥9,771
		その他	¥81,000
収入合計	¥2,033,600	支出合計	¥1,260,781
前年度繰越金	¥2,564,668	次年度繰越金	¥3,337,487
合計	¥4,598,268	合計	¥4,598,268

## 開拓基金会計収支報告

【収入】		【支出】	
今年度献金	¥345,000	今年度貸付	¥0
今年度返済	¥210,000		
収入合計	¥555,000	支出合計	¥0
前年度繰越金	¥5,607,890	次年度繰越金	¥6,162,890
合計	¥6,162,890	合計	¥6,162,890

## コロナ対応基金会計収支報告

【収入】		【支出】	
今年度献金	¥77,000	カンファランス感染対策	¥159,000
一般会計より	¥0	事務費	¥0
収入合計	¥77,000	支出合計	¥159,000
前年度繰越金	¥568,165	次年度繰越金	¥486,165
合計	¥645,165	合計	¥645,165

## 2022年度 会計報告

国内宣教委員会の働きのために多くの献げものをいただき、感謝いたします。昨年度はコロナ禍になってから初めて、対面での宣教カンファランスを神学校において行うことができました。このカンファランスには諸教会の兄弟方も多くご参加くださり、そのなかには4月から神学校に入学される方もおられ、委員一同、主の御名を崇める時となりました。今年度は昨年同様のカンファランスに加え、教役者を対象としたカンファランスも再開することができればと願っております。また、国内の開拓伝道所や支援を必要としている教会へのサポートを拡充していく計画を立てています。続けて国内宣教委員会の働きのためにお祈りと献金をお願いいたします。(委員長:井口)

ありがとうございました



## 宣教委員会からのお知らせ

### 今年度より国内の伝道所・独立教会への定期的なサポートを開始します

これまで委員会では伝道者家族を対象として国保費用などの支援を行ってきましたが、皆様からの献げものをより有効に活用していくため、伝道所および支援を必要としている独立教会の働きのために定期的なサポート(月額5千円)を始めます。

### 開拓基金の貸し出し制度をご利用ください

国内宣教委員会では諸教会の伝道の働きを推進のために、開拓基金の貸し出し(上限額150万円)を行っています。この開拓基金は新規に開拓伝道所を出すだけでなく、不動産の購入や建物の補修などの目的のために用いることもできます。また、伝道所だけでなく独立教会でも用いることができますので、必要がございましたら委員の中川までお問い合わせください。 [katsumibaptist@ashikagabbc.org](mailto:katsumibaptist@ashikagabbc.org)

献金振込先(郵便振込)  
JBBF国内宣教委員会  
00140・2654375



# 就任のごあいさつ



瀬戸内聖書  
バプテスト教会  
澤 清嗣

わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいるところに、わたしに仕える者もいることとなります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます。

ヨハネの福音書十二章二六節  
この度、委員会の推薦と総会の承認を受けて、国内宣教委員の働きに加えていただくことになりました。委員長より推薦のお話しを受けた時一瞬戸惑いを覚えましたが、今も現在進行形で「伝道者家族支援」「国保支援」等のご支援を受けている身です。そのような立場の私が委員会に加わるのはどうかと、そんな思いがよぎります。しかし、受け続けた恩恵をようやくお返しし始めるスタートに立てたのだと感謝の思いで溢れています。今の私に何ができるか、そのために十分な時間を献げることができると、現状を見、自分の中

を見るところ不安でしかありません。それでも前進することが許されるとすれば、そこにもきっと神様のご計画と意味があるに違いないと信仰によって受け止めています。テクノロジーの発展によって、遠隔地にいなから会議に加わり、著しく活動負担も軽減されていることも伺いました。且つ「委員会のメンバー内でも仕え合う」という姿勢に励ましを受けました。さらには「行け、あなたのその力で」（士師記六章十四節）と、ギデオンの臨まれた主のみことばが大きく私の背中を後押ししているのです。取るに足りない今の私の力を主がいつくしんで、ご自身の御力をあらわす器として用いてくださるのでしたら、「喜んで主にお献げします。貧しい私を通して栄光を現わしてください」と祈りの中に置かれています。



希望の丘聖書  
バプテスト教会  
白井 清之

私は今年3月のJBBF年次総会において、3任期9年の国内宣教委員としての働きを終えて退任いたしました。これまで諸教会の祈りと支援に支えられ、この働きを続けることができたことを感謝しています。私自身は33年前に福井市で開拓伝道から教会を始めましたので、教会が独立した後も国内宣教委員会の働きに重荷を負って関わって来ました。自分自身の経験から、地方都市における伝道の困難さや忍耐を理解しているつもりです。しかし、私達が30年前に経験した頃よりも、今は、遙かに困難な状況が私たちの社会を取り巻いていると実感しています。

私たちが夫婦は、神社仏閣がひしめき合っている建つ、因習の深い、行き止まりのような場所、築80年の古民家を借りて開拓伝道を始めました。最初の礼拝に出席したのは、物見遊山で集った近所の3人のおばあちゃんたちでした。大人の人は、なかなか教会に来ませんでした。近くの公園に紙芝居を持って子供たちに伝道すると、次の日曜学校に8名ほどの子供たちが集いました。しかし、

# 退任のごあいさつ

エルサレム教会を支援しようとするマケドニアの諸教会に与えられた神の恵みの業、「激しい試練の中にあっても；聖徒たちを支える奉仕の恵みにあずかりたい」（Ⅱコリント八章四節）という、この初代教会の信仰姿勢に大きな勇気と励ましをいただいています。主イエス・キリストの贖いの御業のゆえにです（同八章九節）。  
恐れをもってあえて申し上げますが、私のような立場でも委員会のご用にあたれるという一つの前例とな

今、私自身が年齢を重ねたこともありますが、それと同じことができませんし、同じことをしても、子供たちがなかなか教会に集わないもどかしさを痛感しています。開拓伝道の当初は、牧師の3人の子供たちの成長と共に、日曜学校にもその友達がたくさん集うようになり、クリスマス会では本格的なミュージカルを行い、小さな会堂に優に80人以上の子供たちが集ったことを懐かしく思い出します。しかし、牧師の子供たちが独立して巣立った今、空の巣箱に小鳥のさえずりが響くことも少なくなりました。年齢を重ねた今と違っては昔と同じことはできないと感じています。勿論、昔と同じことをやる必要はないのですが、やはり若い時だからこそできることがあると感じています。

ですから、私たちの群れに若い時に献身して、まだ教会のない、福音の伝えられていない地域の人々や子供たちに福音を伝え、教会を形成して行く方が起こされることを切に祈ります。開拓伝道はゼロから教会を形成しなければならぬので、それなりの困難さがあります。しかし、私は、主に献身して、主から開拓伝道の志を与えられ、今に至るまで召された同じ場所、この働きができることを主に感謝しています。困難な場所と働きだからこそ、やり甲斐もあり、また、そこに数々の神の奇



札幌聖書  
バプテスト教会  
栢下 献

主の御名を心より賛美します。今年度より、国内宣教委員会の一人として働きができますことを感謝しております。

北海道から総会での交わりを楽しみに出席させていただいておりますが、遠隔地のためフェロシップのお働きには「遠くから祈らせていただきます」という思いでした。そのため、国内宣教委員会のご依頼を受けた時、驚きとともに札幌から務まるのかという不安がありました。しかし、現在はリモート会議が中心で全国どこにいても委員ができるような体制となっています。時代の変化のなか、貴重な機会を与えられたと感謝しています。

また、私が育った検見川教会は、開拓伝道所から諸教会のご支援と祈りのうちに建てられた教会です。他の諸教会のために少しでもお仕えができることを嬉しく思います。

今回委員が2名入れ替わりでしたが、私は国内宣教カンファランスの担当をさせていただくことになりました。私自身も毎年1月に行われる跡の御業を見させて頂きました。それはペテロのように、湖の上を歩くような経験でしたし、「この山に向かい『立ち上がって、海に入れ』」と言えば、そのとおりになる」と言われた、キリストの言葉をそのまま体現するような歩みでした。それはペテロのような使徒達だけでなく、今の私達にも同じ働きと経験ができると思っています。そのような光栄ある働きを委ねられたことを感謝しています。小さな働きでしたが、この働きを若い方が引き継いで、福音が進展して行くことを願って、退任の挨拶に代えさせて頂きます。ありがとうございます。



清水聖書  
バプテスト教会  
浜田 献

私が国内宣教委員に加えていただいたのは2014年の総会でした。当時、神学校を卒業してまだ5年しか経過していなかった私にとって、先輩伝道者の先生方と働きをご一緒し、豊かな交わりをいただけたことは大きな恵みでした。コロナ禍になる前は、いくつかの地域の伝道所訪問に行くことが許されました。関東・信越地方、関西地区、関東地区、四国・中国地方、北関東地区、静岡地区。それぞれの地域で幸いな交わりをいただきました。旅の車中において、委員の先生方と伝道や牧会のこと、聖書の学びや説教のこと、家族や子育てのことなどを語りつつ

ていた伝道者の集まりに何度か参加したことがあり、交わりに恵まれ、御言葉から養いと励ましを受けました。昨年9月には、諸教会からどなたでも参加できる秋のカンファレンスも始まり、ここから神学校への伝道献身者が起こされ、新しい取組みの継続が決まっています。年に2回の交わりの場が、今後ますます主に祝福をいただき、諸教会のために用いられますよう務めてまいります。

世界の混乱が続く、終末に近いことを実感します。間違った宗教が騒がれる日本でも、キリストによるまことの救いがあります必要とされています。半面、教会はこの3年間で疲れや高齢化、無牧の教会も増えている現状があります。教会を委ねられた諸先生方のご労苦を思います。しかし時が良くても悪くても、みことばを宣べ伝え続けるとき、困難の中で主は必ず道を開いてくださると信じます。委員会も皆で知恵を出し合い、祈りと支援を続ける必要を覚えます。初めての務めでありながらも主の助けを求め、長く担っておられます委員の先生方のご指導と協力を頂きながら、自分の役割を果たしたいと願っています。お祈りに覚えていただければ感謝です。



過ごした時間が懐かしいです。最初に参加した伝道所訪問では、現委員長の井口先生が発時にコーヒーを用意してくださり、車中で配ってくださいました。その旅で委員全員がマイボトルを持参しておられることを知りました。当時単身で実家暮らしであった私は、節約感覚が薄かったことを教えられ、帰宅後すぐに水筒を購入しました（今では手放しません）。そのことは些細なことかもしれませんが、様々な経験と知恵を持つ先生方の姿から多くのことを教えていただきました。

3年前からコロナ禍になり、伝道所訪問はできなくなり、会議も殆どがリモートになりました。リモートの利便性を覚えるとともに、顔と顔を合わせて交わることの必要性を痛感する3年間でありました。昨年久しぶりに対面でのカンファランスを開催できたことは大きな励みでした。開拓伝道中の先生方は人知れないご苦労を抱えながら主にお仕えしておられます（「かいたく誌」等で共有できる部分は、ほんの一部だけです）。特に日本における伝道者たちの経済的課題は大きく、家族が苦勞を背負うかたちになってしまいうことも少なくありません。9年間、何ができたのかというと、殆ど何もできませんでした。支えるというよりは支えられ、提供するというよりは与えられてばかりの9年間でした。国内宣教委員としての働きは終わりましたが、これからも敬愛する先生方とご一緒に歩ませていただきたいと思えます。このお働きを通しての交わりと励ましを心より感謝します。



活動再開の喜び

滝山聖書バプテスト教会 伝道師 大木愛

2023年を愛する兄弟方と礼拝をもって始められたことを感謝します。コロナ禍の伝道と言うことですが滝山教会の近況を記したいと思います。

スタッフのみ会堂に集まって、礼拝動画を配信していたコロナ騒動初期のことを考えると、今年は元旦から兄弟や子どもたち、そして帰省中のご家族もともに集まって元旦礼拝をおさげできたことは大きな恵みでした。またオンラインを通してともに礼拝をお捧げする兄弟が備えられていることも感謝です。

オンラインで礼拝を守られている方たちのことは、こちらからは見えませんが、平日に奉仕に来られたり、献金を持ってきてくださったりするとき「毎週見てるから、久しぶりの感じがしない」と言われると、とてもうれしく、近く感じます。まだまだコロナ感



ろばの子ひろば

染は一進一退を続けていますが、今、滝山教会では少しずつウイズコロナを意識しながら

規制されていたものを少しずつ緩和していく時期に入っています。

諸教会でも共通しているかと思いますが、コロナ禍の活動をを通してオンラインでのつながりが確立し、コロナの有無に関わらず、病床にある方、高齢の方、不登校の子なども、礼拝、日曜学校、折り会、他の集まりをオンラインで守れるようになりました。平日の活動も少しずつ復活しています。

ろばのこひろば（未就園児の集まり）は長年教会で活動してきましたが、昨春秋より隔週で近所の保育園に行く機会が与えられ、保育園で地域の方と出会い、みことばを語ることがゆるされています。

ジョイフルタイム（婦人の伝道集会）フラワーアレンジメントとみことばの時を皆さん楽しみに来られます。スポーツミニストリー（サッカー、バスケットボール、バレーボールなどをしていきます。なかなか教会に来られない子たちも体育館やグラウンドにはたくさん集まります。昔やっていたという未信者のパパたちも喜んで参加されています。スポーツの前にみことばが語られます）の再開に続き、軽茶一くらぶ（かるちゃーくらぶ…高齢者の集ま



スポーツミニストリー

りの影響で施設からの外出が自由でなく、まだ忍耐の中にある方もおられます。早く、心配なく喜んで集まれる日を主に期待しています。

集まらない状況の中で、新しくオンラインで「キリスト教を知る会」の集まりが開始されました。教会の敷居が高く教会に来ることはできないけれど、キリスト教に興味があるという大学生のための集まりです。この集まりが始まった初期に救いに導かれた姉妹がようやくバプテスマを受けようとしています。主を讃美します！

日曜礼拝の後、愛する兄弟とおいしい食事を囲んで交わり、会話が飛び交っていた愛餐の光景が懐かしいです。それもまだ状況を見つつ、限られた人数制限の中ではありますが、この年明けから少しずつ再開。台所で奉仕者が忙しそうにしている光景も、台所から聞こえてくる音やにおいも、ご無沙汰していた分大きな恵みを感じているところです。またにぎやかな愛餐が戻っ

てくることも待ち遠しいです。コロナ中に来るようになった方たちは台所が機能していることも新鮮な場面に映ったようです。そして、そんな声が聞こえてきたことも嬉しいことでした。

「神のなされることは、すべて時にかなって美しい」（伝道者の書三章十一節）。主を崇めるのは、新しく始まった活動を通しても、コロナ禍で活動を休止していたことも、それぞれの時期に再開したことも、すべてが主の御手のうちではご計画通りであり、その時々にはふさわしく福音を語る機会、救われる魂、決心する兄弟、奉仕者を与えて下さり、その働きを励まして下さることです。



軽茶一くらぶ

て下さるところに参加できている幸いです。感謝します。

連載③ 名古屋聖書バプテスト教会国内宣教師 上田 晃

イエス・キリストの恩寵の中で

神は唯一です。神と人との間の仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです。

テモテへの手紙第一二章五節

摂理

国民小学校1年生が終わり、京都を引き上げて、石川県珠洲（すず）に疎開しました。汽車と客船を乗り継いで飯田棧橋に着いた時、鞍馬山の天狗から逃げてくれた安堵感がありました。海の側の崖の上にある家。そこが用意された住まいでした。大波が岩にぶつかると凄いい音がするので、眠れぬ夜もありました。疎開者には食べ物がなく大豆の搾り粕が主食で、私の体はやせ細り、「瘦せガット」（能登弁で蛙のこと）というあだ名で呼ばれました。能登弁と京ことばには、つながりがなく孤独な時期がしばらく続きました。能登半島の外浦海沿岸では夏の期間、



揚げ浜塩田

揚げ浜塩田が盛んで、村落ごとに塩造りが行われていました。20㎡正方形の塩田、粘土をコンクリートのように

固く張り付けて乾燥させ、その上に細かい海砂を分厚くまき散らすのです。早朝から海水を何度もかけては乾かし塩分濃度の濃い砂を作り、その砂を集めて、塩田の中央の箱型の枠に入れます。枠に砂を運ぶのが重労働ですが、砂運びの作業は子供から大人まで駆り出されるのです。瘦せガットの私も小学校3年生の頃から毎年、真夏になると砂押し作業をしました。いつの間にか、京都っ子が日焼けした能登っ子になっていました。

私の母は何かにつけて、怒り出す人でした。そんな時、祖母が「見さん。こつちに来さし」と言って、助け舟を出してくれました。叔母、叔父、近所の人、塩田の親方、私にとっては血縁のない人たちでしたが、どの人も心優しい人たちでした。叔父は私たちのために山を開墾し、芋畑を造ってくれました。私も手伝いました。友達もできました。学校も楽しかったのですが、自然が大好きでした。春は山でワラビやゼンマイ摘み。夏は海でサザエ拾い。サザエの巣を見つけた時は舞い上がりました。一潜りで6個は掴めるのですから。秋は栗拾いとキノコ狩り。冬は雪山に入って山兎狩り。学校で勉強もしましたが、能登の山海は、私の



珠洲の名所「大崎島」

喜びの世界でした。その頃、岐阜から疎開してきたS君と友達になりました。S君は「イエス様の話をしてくれました。」「イエス・キリストという人がおられて、上田の罪の身代わりとなって、十字架に付けられて死なれた後、三日目によみがえり、今も生きておられ、悪いことをしないか僕たちを見ておられる。」「上田の罪」と言われた時、私はドキッとしました。不思議と畏敬の思いが心に残りしました。学校で靴屋のマルチンの劇をすることにしました。担任の先生が劇の小道具を入れた箱を持って来られた時、一冊の本を取って、「上田、これがバイブルだよ」と言われました。その本の表紙には崖に落ちた羊を羊飼いが助けようとしている絵が印刷されていました。「えっ？これがバイブル：」。新鮮な感動が心をよぎりました。今も忘れません。高校入試に合格した後、京都に戻りました。

5月の夕方。市電に乗り、羅城門の停留所で降りました。魚屋の横に数名の青年が立っていました。そのなかに十字架を描いた提灯を持っている知り合いがいました。一人の大学生が「すべて労する者、重荷を負う者、我に來たれ。我、汝らを休ません」（マタイ伝文語）と大声で話していました。私

はその時、自分に語られたように思えました。知り合いが「上田さん。教会に来ませんか」と、声をかけてきました。しかし、心落ち着かず、その夜、教会に行きました。がらんとした礼拝堂。十字架も祭壇も燭台もなく、宗教の雰囲気は何もありません。正面に講壇があるだけ。数人が集まって、祈りをしておられました。やがて聖書が開かれて話が始まりました。賛美は知っている曲でした。礼拝が終わると、私は逃げるようにして外に出ました。「また来てくださいね」との声。その日を境に心引かれて教会に行くようになりました。前掲の「神は唯一です。神と人との仲介者も唯一であり、それは人としてのキリスト・イエスです」との御言葉を知りました。「神は唯一。では部屋に入って来たあの天狗は何者？」私は母に手紙を書きました。しばらくして、母から返信が届きました。「貯金箱からお金を盗んだ見さんを懲らしめるために一計を案じ、下宿生のNさんに頼んで演じてもらった」と書かれています。それにしても、あの時の稲光と雷鳴と嵐は一体何だったのでしょうか。義母が幼い子にされた仕打ちを主である神が怒り、警告されたのでしょうか。：（次号に続く）



# 伝道所の祈りの課題

# PRAYER



松江聖書バプテスト教会  
(柳谷 徹先生)

- ①新会堂が用いられて、近隣の方、子供たちが教会に集われ救われる魂が起こされますように
- ②しばらく来られていない救われた方や子供たちが、また教会に集われ、信仰のリバイバルが与えられますように
- ③集っておられるお一人お一人、更に成長されて教会の土台となれますように



瀬戸内聖書バプテスト教会  
(澤 清嗣先生)

- ①教会が瀬戸内市邑久町で市民権を得ることができるように
- ②「こども食堂いちわのすずめ」を通して地域に根差した伝道ができるように
- ③教会独立の導きのために
- ④青年たちの信仰の養いと将来の結婚の導きのために



甘木聖書バプテスト教会  
(吉澤 孝夫先生)

- ①この春に予定されている音楽祭への出演や施設での「音楽プレゼント」、学校での福祉講師の働きが地域に、良き証となりますようお祈り願います
- ②インターネットを使っての視覚障がい者伝道が用いられますようお祈り願います

国内にある  
伝道所のために  
お祈りください



葛城聖書バプテスト教会  
(森 善男先生)

- ①新来者が与えられるように
- ②英語クラスの方々が教会につながるように
- ③チラシ配布が用いられるように
- ④デニーン宣教師のファローのために(3月26日、アメリカ帰国。1年間の予定)



上田聖書バプテスト教会  
(小川 敦司先生)

- ①独立のための良い基礎が築かれますように
- ②新来会者、CS出席者がさらに与えられるように
- ③教会メンバーの家族の救いのために
- ④献身者が起こされるように
- ⑤教会墓地が与えられるように



習志野聖書バプテスト教会  
流山伝道所  
(青島 義宣先生)

- 療養中の兄姉の来会が困難なため、オンライン礼拝を併用中です。
- ①流山伝道所の教会組織、独立のため
  - ②教会員やその家族の健康が守られるように
  - ③新来会者が与えられるように
  - ④求道中の方が救われるように



千本浜聖書バプテスト教会  
(道下 義嗣先生)

- ①独立に向けた動きができるように
- ②伝道所を通して起こされたクリスチャンたちが、それぞれの所で守られ、また互いに愛し合えるように
- ③日曜学校の子どもたちと、各家庭、そして地域にも、神の祝福や導きがあるように